

ぬまピタル

トピックス

病院長就任のごあいさつ

沼津市立病院 広報誌
2017年4月 発行
創刊号 (Vol.1)



PICK UP

広報誌のタイトル決定！！

創刊準備号(平成29年1月発行)において募集をしました、広報誌のタイトルについて、ご応募いただいたたくさんの案の中から、院内の広報委員会にて慎重に審査した結果、沼津市在住の大川さんからいただいた、「ぬまピタル」に決定いたしました。

「ぬまピタル」ってどんな意味??

「ぬまピタル」は、「沼津」と「ホスピタル」を合わせた造語で、「市民の健康にピタッと寄り添う」という意味もかけています。今後、沼津市立病院広報誌「ぬまピタル」が皆様にとってお役に立ち、愛される広報誌となれるよう、魅力ある誌面を作ってまいります。

応募総数 143通!
たくさんのご応募、
ありがとうございました!

INFORMATION

沼津市立病院での 行事・イベント情報

- 職員採用試験【5月13日(土)、6月10日(土)、7月15日(土)】
看護師や助産師等、病院職員の採用試験を実施します。
 - 健康まつり 2017【7月1日(土)】
病院職員と市民の皆様がふれあうことを目的としたイベントです。
 - 糖尿病教室【7月11日(火)・25日(火)、8月8日(火)・22日(火)】
糖尿病についての理解を深めてもらうための教室です。
- ※行事、イベントの詳細は、ホームページ等でご確認ください。

表紙の人

(左から)
阪井彩香(さかいあやか)医師
勝又 萌(かつまためぐみ)医師
山内昌磨(やまうちしょうま)医師
甲田研人(こうだけんと)医師
木村文音(きむらあやね)医師



記念すべき創刊号の表紙は、当院の臨床研修医が飾ります。医師としての第一歩を踏み出した研修医たち。未来の沼津の医療、日本の医療を担う彼らは、日夜努力を重ねています。

「未来の医療はわたしたちが創る。」

決意を胸に、当院ヘリポートでの1枚です。



調理:5分
80kcal

そら豆のうす皮には
食物繊維がたっぷり♪
捨てずに丸ごと食べてみて。
にんにくと一緒に調理すると
疲労回復の効果あり!

+1品 おいしい
簡単レシピ

そら豆の
ガーリック焼き

材料 2人分
そら豆(さやを除く).....1袋
にんにく.....1かけ
オリーブオイル.....小さじ2
塩こしょう.....適量

スナッペンでも
おいしんですよ。

1. そら豆を軽く水洗いし、電子レンジで1分ほど加熱する。
2. フライパンにオリーブオイルと、スライスしたにんにくを入れて香りを出す。
3. そら豆を入れ、ゆっくりと焼き、両面にじっくりと焼目をつける。
4. 塩こしょうをお好みで味付けし、できあがり♪

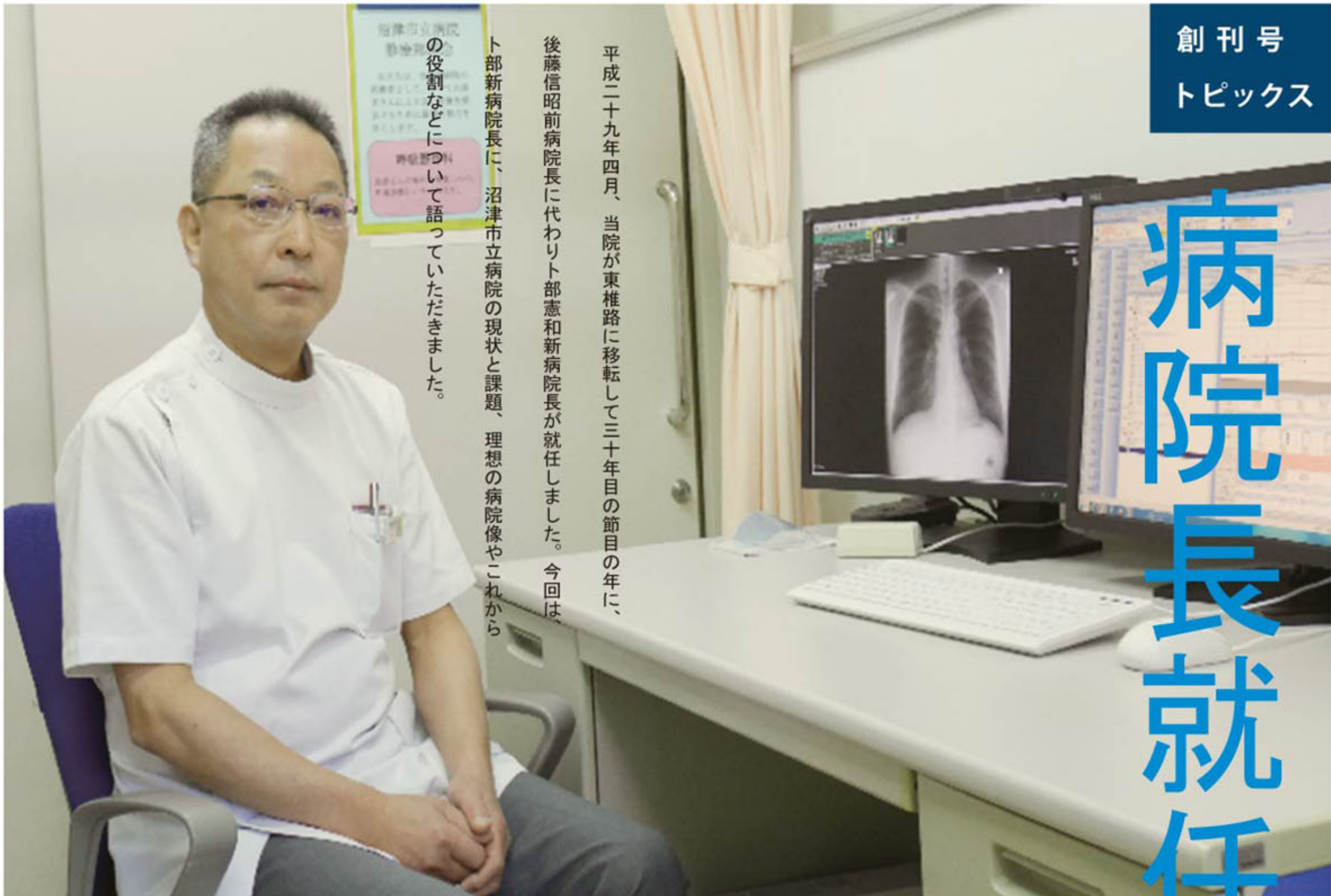
沼津市立病院

【基本理念】
市民のために 共に歩む病院

〒410-0302 沼津市東椎路字春ノ木550
Tel:055-924-5100
mail:byoin-so@city.numazu.lg.jp
http://www.numazu-hospital.shizuoka.jp



病院長就任の「あいさつ」



平成二十九年四月、当院が東椎路に移転して三十年目の節目の年に、後藤信昭前病院長に代わりト部憲和新病院長が就任しました。今回はト部新病院長に、沼津市立病院の現状と課題、理想の病院像やこれから診療科の役割などについて語っていただきました。

る診療科もあり、市民の皆さんに十分な医療を提供できていないことを大変心苦しく思っております。

現在、地方都市では、医師・看護師の確保は非常に厳しい状況であり、特に静岡県東部は県内のどこよりも医師・看護師が少なく、これは短時に解決できる問題ではありません。しかし、医師・看護師の確保は喫緊の課題であり、困難な課題とは承知していますが、今後とも解決に向けた努力を惜しまない覚悟しております。

また、これを支えるコ・メディカルの活動も軽視できません。コ・メディカルを含めた病院職員全体の活動を充実させることで、患者サービス向上につながり、ひいては病院の活性化に直接結びついていくことと考えています。

これから、病院を利用される患者さんやそのご家族からお寄せ頂いている「声」を参考に、今以上に活発に活動していきたいと思っています。

一方、医療機器の充実は「診療の質」という意味で非常に重要な意味を持ちます。これを保つには、



ト部新院長のもと新たな船出となる市立病院

経営の質改善が重要な課題になります。経営の質改善は、当院のような地方公営企業法一部適用の病院においても非常に重要な問題であり、無駄をなくし、効率の良い経営を目指すことが存続の力ギでもあります。そのために、今年度より、新たに経営改善だけを目的とした部署を設置し、経営の安定化を目指していきます。

新時代への突入

当院の果たすべき役割

高齢化がピークに達するとされる二〇二五年に向けた地域医療構想の中では、当院のような公立病

第十六代

沼津市立病院 病院長

平成二十九年四月一日付けで沼津市立病院第十六代病院長を拝命いたしましたト部憲和と申します。当院は昭和三年に伝染病院として設立され、昭和二十年に総合病院となった七十年の歴史のある病院で、今回そのかじ取りを任せられ、身の引き締まる思いです。

当院は昭和六十三年に現在の東椎路に移転し、平成元年に五百床の新病院として診療を開始しました。平成二十五年に心臓血管外科を新設し、二十四診療科となりましたが、看護師不足などの理由により、現在四百二十六床で診療を行っています。

当院の理念は、「市民のために共に歩む病院」です。市民の皆さんが病気や怪我をされた時に、暮

院は病床機能の適正配置や在宅医療の拡充を強く求められています。厚生労働省は、この二〇二五年を目途に、可能な限り住み慣れた地域で、在宅生活を中心に、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。この中で政府が目指しているのは、「時々入院、ほぼ在宅」という形です。これまでのような病院完結型ではなく、今後は日常的にはかかりつけ医の先生方の診療を受けながら、在宅生活を続ける患者さんの必要時の入院受け入れをする機能を持つことも求められています。

このような時代の流れに伴った変革に対応するためにも院内の構造の改革が必要となります。また、患者さんの受け入れには地域医療連携による地域医師会との連携は必須となりますが、当院のもう一つの顔である「地域医療支援病院」の機能を活かした病診連携のさらなる構築が必要となると考えています。また、医師会だけではなく、

らし慣れたこの地で安心して治療を受けられるようにすることが、当院の何よりも重要な責務です。市民に寄り添い、慕われ、時代のニーズに応えながら進化していきたいと考えています。

目指す理想の病院像

当院が目指す病院像は、静岡県東部の中核をなす急性期病院として、「救急診療」と「専門診療」を地域に提供することです。「救急診療」については、平成十六年に新型救命救急センターを開設し、三次救急の患者さんをはじめとして救急患者さんを積極的に受け入れ、駿東田方地区の救急医療を支えています。また、「専門診療」については四十余名の学会指定の専門医を擁し、日夜診療に励んでいます。しかしながら、現在閉鎖してい

介護や福祉の関係機関との連携を大切にしながら、患者さんの円滑な在宅での生活を支援して参りたいと思います。

医療界の話ではありますが、平成三十年度から新専門医制度が始まります。流動的な医師の配置の変更など、医療を取り巻く情勢は不透明なことが多くありますが、地域の患者さんのニーズに応えることに変わりはありません。市民の皆さんの健康を守るため、求められている機能を果たし、市民の皆さんが安心して利用できる病院づくりに職員一同一丸となって邁進していく所存です。

今後とも当院の運営につき、ご理解・ご支援をいただきたくお願い申し上げます。

Profile

ト部 憲和（うらべ のりかず）

院長兼呼吸器外科部長兼緩和医療科部長

（専門分野・資格）

- ・日本胸部外科学会指導医
- ・日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医・指導医
- ・日本呼吸器外科認定医機構専門医
- ・日本がん治療認定医機構暫定教育医・指導医
- ・日本緩和医療学会暫定指導医
- ・日本外科学会専門医・指導医
- ・日本臨床腫瘍学会暫定教育医
- ・臨床研修指導医